



おちあひよし
落合芳幾 画「太平記英雄伝 十四 松永弾正久秀」
(立命館大学アートリサーチセンター所蔵)

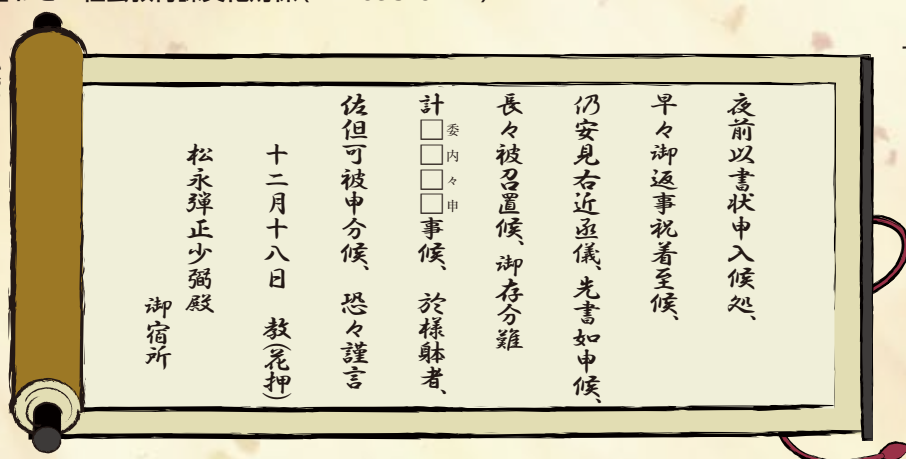
古文書から見た 戦国合戦 ～私部城を巡る攻防～



安見右近、松永久秀のもとへ

まつなが ひさひで やすみ うこん
第5回は、松永久秀と私部城主安見右近の関係を読み解く上で、特に重要な古文書を紹介します。
問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)

※花押とは、現代でいう
サインのようなものです。



先月は將軍の暗殺事件と天下再興の戦いを紹介しました。久秀はこの將軍暗殺について良く思っておらず、天下再興の戦いの中心である畠山氏に近づいていきます。そうした状況下での、安見右近の動向が書かれた手紙が、現在も残っています。

差出人の「教」とは畠山氏の有力家臣である遊佐信教のこと、宛先の「松永弾正少弼」とは久秀のことです。

内容を現代文に訳すと、「昨夜、書状で申し上げましたところ、早速ご返事をいただき大変嬉しく思います。安見右近のことについては、この前のお手紙で申し上げたとおり、長くあなた(松永久秀)のもとへお預けします。詳しいことは、内々に申し上げます。事情につきましては佐但(信教の部下と思われる人物)より申し上げます。恐れながら謹んで申し上げます。」と書かれています。

書状には日付は書かれていませんが、内容から、天下再興の戦いが始まった永禄8年(1565)に出されたものだと考えられます。奈良で反幕府勢力と戦っている右近を久秀に預けることで、奈良方面からもこの戦いを勢い付けようとする畠山氏の思惑もあつたようで、右近が重要視されていたことが分かります。



「遊佐信教書状」(永禄八年(1565))
十二月十八日付(大阪城天守閣所蔵)

極悪人?爆死?誤解されている久秀像

久秀は、主君であった三好長慶の息子を殺害したり、將軍足利義輝を暗殺したと言われており、極悪人と評されていました。しかし、最近の研究により、これは江戸時代に作られた話であり、戦国時代の史料によれば、どちらの殺害にも関わっていないようです。

また、自身の最期についても、信長に敗れ、久秀が所有する茶器を差し出せば許すと言われるも、それを拒んで茶器に火薬を詰め、爆死したという豪快なエピソードがありますが、これも後の創作だったようです。

コラム



広報かたの編集と発行
No.795

交野市役所企画財政部秘書広報課 〒576-8501 大阪府交野市私部1丁目1番1号
TEL 072-892-0121 FAX 072-891-5046 発行：2018年8月1日